

# 平成30年度 布佐中学校 学校評価 教職員による自己評価集計

1. 各評価の観点について実践を振り返り、評価欄の数字に○をつけてください。  
 4:十分重点として認識し、達成に向けた努力をしている    3:重点目標として認識し、実践している  
 2:重点としての意識は低く、個別的な努力をした。        1:ほとんど認識がなかった。
2. 各項目の「自己評価・提案」の欄には領域に対する自己評価、学校改善(3学期)に向けた提案を書いてください。

※ 自己の取り組みに対する反省、評価でなく、2学期における布佐中学校の教育活動全体をみてそれぞれの項目について自分としてどう評価するのか、という観点から記入してください。

平成30年度学校教育目標

『自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成』 「自主性」「共生」

平成30年度の重点

- 1 よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え、的確に判断しながら主体的に行動(表現)できる生徒を育てる。
- 2 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。
- 3 家庭・地域と連携し、三者一体・総ぐるみで生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。

今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」

【5つの柱】

- 1 言語活動の充実・・・授業での実践、特別活動での実践。
- 2 教職員の協働・・・目的・目標を全職員で共通理解し、同じベクトルに進む。
- 3 共生的な態度・・・互いの価値を認め、支え合い、助け合う態度。
- 4 小中一貫・・・一貫カリキュラムの整備による学力向上、中一ギャップの解消等。
- 5 人材育成・・・教職員の指導スキルとキャリアアップを図る。

【3つの重点活動】

- 1 自ら課題を見つけ、解決にむけて思考し表現する力やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの作成。
- 2 学校内外で他者に関わる活動、人や地域に貢献する活動を進める。
- 3 チーム布佐として協同・協働できる組織。

めざす生徒像

- ① よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え的確に判断しながら主体的の行動(表現)できる生徒。
- ② 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒。
- ③ 地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて参画できる生徒。

めざす学校像

- ① 学校を核として、家庭・地域と協働しながら、「みんなで創る地域の小中一貫・ふさ学園」
- ② 先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。◎希望の登校(出勤)・満足の下校(退勤)
- ③ 地域コミュニティーの中核としての役割を果たせる学校。

○今年度の重点について

重点	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学 期末	1学 期末
		4	3	2	1		
1	主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。	4	3	2	1	89%	87%
		4	12	2	0		

※2学期を終えて

- ・ よりよい学習のあり方とは？子ども達を主体的に学ばせるために…提出物等の課題を踏まえながら私たちも考えていく必要がある。
- ・ 先を見通した指導を心がけ、生徒が主体的に考え行動ができるようにしたい。
- ・ 生活のルール(机の中、上の整理、休み時間のすごし方、言葉遣い)を、もう一度しっかり指導していきたい。
- ・ 正しいことがしっかり通るように声掛けをする。通らないときは指導をする。全体的にそうした雰囲気がつけているように思う。
- ・ 行事を通して生徒達に経験をさせ、力をつけさせるために教師側の手立てが必要。
- ・ 教科において自ら考えさせること、的確に判断するための資料は意識していた。主体的に行動(表現)につながっているかは、確認ができていません。今後は、行動できているか、しようとしているかなどを確認するための工夫をしたいと思います。
- ・ ふだんから班長会やリーダー会を毎週行っているので、1年生は意識が一般生徒の中にも広がっている。さらに広く、深化できるようにこの形を進めていると良い。
- ・ 子どもたちの価値判断が、いわゆる「常識」と大きくかけはなれている(保護者も)ことが多い。指導は日々続けているが…。
- ・ 主体的に考える前の基礎知識がない生徒が多いので、今のBASIC(B型伸長)は再考した方がいいかもしれない。
- ・ 【現状】「自治」を「主体的」に行うことができる。声かけをする生徒もいるが、一方で言われるまでやらない、気づかないという生徒もいる。  
【改善案】リーダー会などをより活発化させ、意識付けをはかりたい。
- ・ より良い学校生活にするため、部会や委員会などがよく動いていると思うので、先生方の指導が活きていると思います。学習のあり方に関しては、朝の読書活動を増やし、もっと活字に触れさせたり、BASICのあり方も変えていった方が良いのではと思います。
- ・ 生活面でも学習面でもすぐに答えを言わず、生徒に考えさせ、より良い判断を導く指導を心がけることができた。

重点	互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。	4	3	2	1	2学 期末	1学 期末
		2	3	15	0	0	100%

※2学期を終えて

- ・ 様々な子がいて課題は0ではないが、概ね達成できている。
- ・ 班学習により学力が厳しい生徒や特別支援の生徒も他と同じ学習ができていると感じる。
- ・ 助け合う姿が2学期はよく見られましたが、正しい流れに乗れない生徒が浮いてきている。
- ・ 個を尊重したかわりができている。
- ・ 教科において、様々な価値観があることを家庭生活と結び付けて意識して指導しています。その中で自分がどう貢献できるのか、もう少し具体的に考えられるような指導を工夫したいと思っています。
- ・ 授業の中で学び合いを意識的に取り入れているので、よくできてきている。が、内容によっては班隊形でなくて、列もありかとも思う。

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 団体戦は強いが、個人戦はめっぽう弱い(学習)。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 仲間と協力しながら取り組めるようにチームごとに活動できるように工夫しました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 【現状】学びあいは、よくできている。自分の事ばかりを優先してしまう生徒もいる。 【改善案】道徳の充実をはかりたい</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業でわかる生徒がわからない生徒におしえていたり、部会の中で学級・学年の為に新しい取り組みを考える生徒が多く、損得だけを考えずに行動できる生徒達だと思います。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別支援学級でも、生徒同士がぶつかる場面が多々あるので、その都度指導している。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・</li></ul>

3	家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		4	13	2	0	89%	93%

※2学期を終えて

- ・ 小中一貫運営協議会も軌道に乗りつつあり、社会に開かれた教育課程が実現しつつある。課題は今後どんどん入れ代わっていく。(小学を含めた)
- ・ 行事などで家庭と地域の方がもっと生徒の活動をみてもらえるように、曜日や活動場所や伝え方を改善するとよいと思う。(地域の方が入ってはいるが、見に来てくれる方が少ない)
- ・ 提出書類などを遅れる家庭が多い、連絡は密にとるが、提出物の話題が多くなってしまう。
- ・ 地域との協働は布佐タイムをはじめ多くの場面でできている。
- ・ 文化活動発表会は小学生や小学校の先生にも見てもらいたい。そこで部活も紹介できればいい。
- ・ 布佐タイムや部活動で達成できていると感じる。ただし、もう少し外部の人へ積極的に挨拶できるとよい。
- ボランティアや部活動の指導、布佐タイムなど、これほど地域がかかわってくれている学校はないと思う。
- 教科の中で、実習を行うときに、地域の方々に入ってくださいました。実習以外で例えば地域での活動の話をしていただいたり、布佐中に対する思いなどを話していただいたりする機会もあるといいなと思います。
- ・ 学校の思いが伝わらない、家庭への関り方を学校の中で研修する機会がほしいです。
- ・ 日々連絡を取り続けましたが、連絡をしても返ってこない、ネグレクトに近い、逆ギレ(クレーム)などをされることも多い。しかし、あきらめずに指導を続けていこうと思う。
- 【現状】家庭との連絡をしっかりと、何かあれば連携をした。一方で、家庭学習の面で子供の支援への理解がないことがある。  
【改善策】3年0学期ということで、進路に向けた意識づけを親子ともどもしてもらえるように支援する。
- ・ 布佐タイムなどで、地域の方と協力して生徒を育てていこうという考えが良いと思います。ただ、総合の時間をもっと確保してほしいです。家庭との協働に関しては、学校との価値観が合わない保護者が多いと感じるので、対応を考えていければと思います。
- ・ 積極的に小学校の授業研修や特別支援の交流をこれからはかっていきたい。

手だて 言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かし・人を育てる(職員・生徒)

領域 学力向上のための校内研究の推進と授業改善

NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
1	グループを活用して「活動と協同」のある授業を実践している。	6	12	0	0	100%	100%
2	「活動と協同」のある授業を実践するために、学習課題のあり方や教員の話、ファシリテーターとしての役割に留意している。	6	9	3	0	83%	87%
3	授業の初めに学習課題(問題)を提示し、終末にまとめや振り返りの時間をとっている。	5	13	0	0	100%	100%
4	1時間の授業の中で、「深める」活動(思考をする)を取り入れている。	2	13	3	0	83%	87%
5	同一教科による学年間をつないだ言語活動の充実に向けた取り組みを行っている。(書く、プレゼンテーションをする、学び合い など)	3	10	4	1	72%	87%
6	読書・読書活動の充実のための取り組みと授業への図書の利用を推進している。	2	5	6	4	41%	27%
7	授業の中で学校図書を活用するための工夫を行っている。	2	5	5	5	41%	20%
8	家庭学習の習慣化・充実を図り、授業と連動させる工夫を行っている。	5	6	5	1	65%	73%

※2学期を終えて

・	現状に満足せずさらに質の高い授業をめざして研修していくことが大切。
・	図書室を利用する授業も少しずつ増えている。
・	6. 7. 図書のかわりにICTを活用している。
・	8. 宿題をこまめに出す。宿題の内容を工夫するなどしたが家庭学習の習慣化は難しかった。
・	2. 授業の進度が心配で、ついつい説明の多い授業をしてしまったと反省しています(理科)。
・	活動と協同を達成させるために、グループ学習のルールを徹底させる必要がある。
・	6. 単元によって取り入れようと努力した。また、その結果をレポートにして提示し、興味や関心を持たせた。
・	2. ファシリテーターとしての役割について知識不足なので勉強したいと思います。
・	7. 藤川先生の授業のような図書室の使い方を見せていただいたので、3学期工夫します。
・	6. 7. 授業で活用する機会を作れなかった。
・	8. クラスでは呼びかけているが、自分の授業ではあまり活用できていない。
・	7. 笛吹けと踊らせ、教員の意識を変えないと難しい。教科の特性もあるかもしれないが、積極的に利用してほしい。
・	8. 保護者会等で呼びかけ、協力をお願いをしているが、親子でゲーム三昧の家庭もあり、家庭の意識を変えていかないと難しい。
・	6. 7 図書室を利用する機会がないので、宿題で新聞やレポートを書く際に利用させたい。
・	6. 7 図書館活用がどうしても時間がつくれなかった。歴史の授業の最後の総まとめで利用できるように計画していきたい。
・	6. 朝読書をもっと増やしても良いのではないのでしょうか。
・	7. 保健分野で発表を入れ準備の時に図書室を開放した。

領域		特別活動・道徳					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
9	特別活動(学校行事、生徒会、学級会、学級活動)での話し合い活動を進めている。	5	6	5	1	65%	80%
10	課題発見、解決型の総合的な学習を進めている。	7	7	2	0	88%	93%
11	一人一人のよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている。	6	11	0	0	100%	87%
12	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進している。	5	12	0	0	100%	73%
13	生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している。	3	5	6	2	50%	73%
14	一人一人が所属感・存在感をもてるような学級経営の工夫により、生徒が充実した生活を送っている。	2	10	3	1	75%	73%
15	学級活動等の活性化により、生徒の主体性の育成を目指している。	3	10	2	1	81%	93%
16	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている。	5	9	1	1	88%	93%
17	道徳で培った道徳的判断力や行動力を、生徒の生活や他の教科の中で生かそうとしている。	6	11	0	0	100%	80%
18	特別の教科 道徳の実施に向けて取り組みを進めている。	3	11	3	0	82%	60%
<b>※2学期を終えて</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定につながるように集団での合意形成を図る取り組みは今後ますます大切になってくる。生徒の主体性を育む取り組みはさらに大切にしていかなければならない。</li> <li>18. 2学期は道徳の授業を多くできた(3年)。</li> <li>不登校になる生徒がでてくる。充実した生活を送れていないのではないかと心配。</li> <li>11. 一人一人生徒の抱えている問題を把握し、その生徒にあった対応を心がけることが大切だと思い、実践に努めた。</li> <li>18. 授業時数は1学期より増えているが、来年度の教科化で確実に実施できるようにカリキュラムを精選する必要がある。特に総合学習が時間内に終わるような取り組みに変えるべき。</li> <li>18. 1年生は主任のリードで新しい道徳に向けて取り組んでいます。</li> <li>12. 部活動で地域のイベントに参加をするのはよいことだが、行事が多すぎて練習が間に合わない。「今日の演奏もよくなかった」という子どもたちからの反省も多く行事を精選する必要がある。</li> <li>18. 行事を選定しないと、しっかりと道徳の時間はとれないと思います。また、担任だけでなく、副担任も率先して道徳教材作成など協力が必要。</li> <li>17. 18. 特別支援学級での道徳をあまり実施することができなかったので来学期とりいれてみたい。</li> <li>18. 道徳の時間をすべて道徳として使えるように準備していきたい。</li> <li>15. 17 布佐タイムや行事等で道徳や学活を使わなければならない状況だと思います。ただ、学級会を放課後に行ったりと、話し合い活動は良くやっていると思います。</li> <li>18. ほとんど理解できていないように思う。勉強していきたい。まずは時間数の確保から。</li> <li>18. 道徳の授業は事前に学年内で研修している。</li> </ul>							

領域		生徒指導・教育相談・長欠対策					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
19	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	5	6	5	0	69%	60%
20	生徒に自律的な規範意識を育てるよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	12	6	1	0	95%	100%
21	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	9	8	2	0	89%	80%
22	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	10	9	0	0	100%	93%
23	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの言動に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	9	10	0	0	100%	93%
24	社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・モラル等)を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	6	11	2	0	89%	87%
25	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	8	10	1	0	95%	93%
26	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	6	11	2	0	89%	87%
<b>※2学期を終えて</b>							
	保護者と連携することは大切だが、それができない保護者、我が子しか見えない保護者の増加、子どもを変えていかないと次の世代も大変になる。						
	25. 保護者ともっと連携していかなくてはと感じる。						
	26. いじめアンケート等を通して出てきたことは共通している。						
	24. 「焼け石に水」かもしれないが、日々呼びかけを続けている。						
	20. 小規模校ゆえに分掌等多く抱えている先生が多いので、報・連・相を円滑にしてチームで事にあたるようにしていきたい。						
	19. 教員間の情報のやり取りがよく行われていると感じます。勉強になります。						

領域		健康管理・安全管理					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
27	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	11	8	0	0	100%	93%
28	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	7	12	1	0	95%	87%
29	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	5	14	0	0	100%	87%
30	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	5	13	1	0	95%	93%
※2学期を終えて							
<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAのあり方、職員との連携については、現状のままの組織、活動内容では厳しい面がある。</li> <li>28. 管理職、担当分掌はハザードマップや危険地域、危機管理マニュアルを知っているが、もっと周知ができるといいと反省しています。</li> <li>30. 土曜日などにPTA役員が会議でいらっしやることもあり、その日に活動があることを把握していなくて対応に困ることが数回あった。申し訳ないと思う。</li> </ul>							
領域		特別支援教育					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
31	特別な支援を必要とする生徒に対して、学級経営や授業の中で配慮を行っている。	2	12	5	0	74%	73%
32	ユニバーサルデザインの考え方に基づいた授業実践に努めている。	9	9	0	0	100%	100%
33	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成しようとしている。	4	12	2	0	89%	87%
34	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携を図ろうとしている。	6	9	2	0	88%	93%
35	特別支援学級の生徒との交流学習を図っている。	7	9	1	0	94%	80%
※2学期を終えて							
<ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級に在籍する特別支援を要する生徒を一斉指導の中で他の生徒との兼ね合いも考えながらどう指導していくか永遠の課題である。</li> <li>33. 班活動の効果で特別支援の生徒も浮くことなく生活、学習できていると感じるが、気づかずもれてしまうこともあると感じた。より広く計画を作成し、実践していかなければならない。</li> <li>34. 外部の関係機関との連携は、今後も継続していくべきだと思う。</li> <li>32. 授業の内容について、何か系統的なことを意識した指導ができるようにしたいと思っています。</li> <li>31. クラスの多くがこのことにあてはまるので、毎日勉強させてもらっています。</li> <li>32. 40人学級ですと、合理的配慮も難しいと思います。</li> <li>31. 34特別支援学級の生徒への指導が手さぐりで申し訳なかったです。もっと勉強していきたいと思えます。</li> <li>35. 特学の生徒と通常学級の生徒の交流の場が多いことに驚きました。</li> </ul>							



領域		研究と修養					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
36	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	8	9	0	0	100%	93%
37	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	3	15	1	0	95%	87%
38	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	3	12	3	1	79%	80%
39	小中一貫教育の推進に向けて、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	2	10	5	1	67%	53%

※2学期を終えて

- ・ 職員がどんどん入れ換わる中で、持続性のある小中一貫教育を行い、現場を維持するためには…真剣に考えていく必要がある。
- ・ 38. 小学校で地域の歴史についてどのように学んできたのか把握できていない、反省しています。
- ・ 三校合同研修でもう少し小学校の先生方と情報交換がしたい。
- ・ 37. 教員の中での常識も時々確認する必要がある時代になったと思う。
- ・ 37. 他の人の授業見学がなかなかできなかつたり、授業について話し合ったりすることがなかなか余裕がなかった。今後は積極的に参加していきたいと思います。
- ・ 37. かかわるチャンスがあまりなくて申し訳なく思う。
- ・ 36. みなさん忙しすぎてそのような時間がとれません。若手の国語力も気になります。
- ・ 43. 最低限必要なものは、不自由なく買えるようにしてほしい。

領域		組織・学校情報の広報					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
40	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るよう努めている。	5	13	0	0	100%	93%
41	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	7	10	2	0	89%	93%
42	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	6	12	1	0	95%	93%
43	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	5	7	3	3	67%	80%
44	HP・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	7	12	0	0	100%	93%

※2学期を終えて

- ・ 地域との連携を継続していくためには、次の世代、特にコーディネーターの発掘と育成が急務。
- ・ 44. 部活動HPの更新を計画的に行いたい。
- ・ 生徒会の活動で周知できないことがあった。三人各学年に生徒会担当がいるので連携したい。
- ・ 43. 市予算の財務はよくわからない。
- ・ 41. に関しては全職員が意識して行うべきだと思う。
- ・ 42. 言ってもすぐに直らないところもあるが、根気よく続けていきたい。
- ・ 41. 行事の細案、月日程についてももう少し早くわかると助かります。授業時数、学年行事のための立案をすすめてほしい、仕事が滞ります。

